

一流の牛飼いに ～グランドチャンピオンへの道～

熊本県立菊池農業高等学校 畜産科学科 3年 内田 実花

平成23年全北海道共進会、経産牛リザーブチャンピオンは「ハッピー グローリー ダンディー エターナル ET」号。この牛は、私が研修を行った小椋牧場で繁殖した牛です。

我が家は、西日本最大の乳牛の飼育頭数を有する菊池市泗水町^{しすいまち}に位置し、現在搾乳牛45頭、育成牛35頭の専業酪農家です。現在の経営成績は、1頭当たりの平均乳量10800kg、乳脂率3.9%、体細胞数15万個で、昨年の粗収益は約5000万円でした。我が家の牛群には、全日本共進会2連覇のオラホーム、カナダでも注目されているカーンピラ、そして、ワールドチャンピオンに2年連続で輝いたロイフロスティの孫、ブローカーエレガンスなどの血統がいて、世界で注目されているショウカウの血統が半分以上を占めています。私は、幼い時から親の職業である酪農に憧れを持っていました。そんな私は、3人兄妹の末っ子として生まれ育ち、兄妹の中で一番牛と関わってきました。保育園から帰るとすぐに牛舎へ行き、牛と会話したり遊んだりが高校に入学するまでの日課となっていました。酪農とは動物の命を預かる仕事、休みがなく重労働であるということ、生半可な気持ちで簡単に出来るものではないと親の姿を見て分かっていました。しかし、牛と居るとすごく心が安らぎ、辛くても笑顔になる事ができ、酪農家になる事をずっと夢見ていました。しかし、その夢を家族に何度となく反対されました。祖父には「遊び半分で酪農ができるはずがない」と言われ、母親は「自分と同じきつい思いをして欲しくない」という思いから、私が酪農をすることを猛反対されました。将来、親の跡を継げるのか不安になり、酪農家という夢を正直諦めかけていたこともありましたが、私の心にはやはり「酪農をやりたい。牛が好きだ。」という強い思いがありました。中学3年生の時、熊本県共進会で我が家の牛をリードし、未經産の部で見事グランドチャンピオンに輝いたことも、その気持ちを後押ししました。そこで、専門的な知識・技術を身につけ、いつかは夢を認めてもらいたいと思い、熊本県立菊池農業高校畜産科学科に入学しました。

畜産科学科では、牛以外の動物たちともたくさん触れ合い、詳しく勉強をすることができました。そして、部活は牛部に入部し、毎日牛の管理を行い、共進会にも出場し、牛の改良についても少しずつ理解できるようになりました。中学生までは、牛に接するだけで十分な知識もなかった私ですが、学習や牛部の活動、また、仲間や先生方との出会いなどから、自分が成長できたと感じることもあり、菊池農業高校に入学してよかったと思っています。しかし、私にはまだまだ足りない部分がたくさんあり、もっと牛の事を学びたいと思うようになりました。

そこで昨年、周りの農家さんや先生に勧められ、夏休みを使い40日間、北海道帯広市の

小椋茂敏牧場で研修をさせていただきました。小椋牧場は家族4人で約240頭の乳牛を飼育している専業酪農家です。北海道の全道共進会でもチャンピオンを取るなど好成績を残されている先導農家です。我が家や、学校で経験したこともありましたが、熊本との経営規模や餌の種類、飼育方法、考え方の違いから、戸惑う事もたくさんあり、搾乳の時も、自動離脱の搾乳機ではなかったため、失敗して怒られたりもしました。初めての研修ということもあり慣れておらず、弱音を吐ける人が近くにいないため、泣いたこともありましたが、しかし、怒られたり、涙を流した分、多くの事を学ぶことができました。酪農に夢を持ち、カナダやアメリカで研修をされた息子さん達が「どんな牛でも愛情を注いでいけば自分の気持ちに伝えてくれる」と話してくれました。そのおかげで、牛との関わり方などを学ぶことができ、将来をより現実的にとらえ、酪農家になりたいと強く思い、充実した研修を行うことができました。全道共進会にも連れて行って頂き、リザーブチャンピオン牛に触れた時の喜びは今も忘れることが出来ません。

私は、牛部で勉強していく中で「経営」が何よりも主であることを理解し、乳用種雌牛評価成績の上位にランクされたいと思うようになりました。評価成績とは、乳量と牛乳の成分の成績を主に、体型を加味した評価を全国ランキングで表すもので、現在9割を北海道の牛が占めています。そこで今、私はプロジェクト学習で味噌麹菌を使い、粗飼料の摂取量増加をねらった乳脂肪分向上試験を始めています。なぜ味噌麹菌なのかというと、味噌には消化促進効果や肝臓機能の強化等の効用があると言われていたからで、肝機能強化により繁殖力の改良もねらっています。また、小椋牧場で「牛は子牛の時からしっかり管理をしていないといけない。牛は育成がすべて。」とも教わりました。この言葉を思い出し、発酵初乳へバナナ、リンゴをすり下ろし、さらに乳酸菌を添加した、発酵乳給与による哺乳子牛の下痢予防と発育増進試験も行っていて、育成効果を期待しています。

今年の夏は「全国ブラック&ホワイトショウ」への出品のため力をそそいでいます。卒業後は、さらに技術を身につけるために、1年間北海道の牧場で研修を積みたいと思っています。その後は、酪農の先進国でもあるカナダのローズデール牧場に研修に行くことを計画しています。そこで実際に、繁殖・育成などの管理技術や共進会でのショウ技術を習得して力をつけたいと考えています。将来、研修で学んだ事をいかして、北海道のように乳量、乳成分、体型の優れた牛を生産します。就農後には、搾乳牛60頭で個体管理を徹底し、1頭平均乳量12000kg、乳脂率4.0%以上、体細胞10万個以下の生産性を重視した牛群を目指します。また、育成牛の個体販売も県の相場より高い1頭平均70万円、年間15頭を出荷、合計粗収益を約7900万円、純収益を約3000万円と考えています。全国共進会でグランドチャンピオン牛を育てる事が私の大きな目標です。経営と共進会が両立できる内田ブランドへ、牛群を改良します。

しかし、現在の酪農情勢には厳しいものがあります。TPP、飼料高騰、牛乳消費、環境問題、そして、後継者不足など様々な問題があります。これらの問題は、避けて通ることはできません。幸い私の住む菊池地域は、多くの若い先輩方が後継者として就農されています。先輩方から指導を仰ぎながら、一致団結して若い力で地域に元気な酪農を築いていきたいと考えています。熊本の酪農を盛り上げるだけでなく、熊本酪農の確固たる地位を築くために、日々研鑽を重ねていきます。様々な問題に負けない酪農家であるためには、何よりも牛が好きであること、常に探求心・向上心を持っていること、そして、消費者の立場に立った牛乳生産が出来る経営者になることだと思っています。

牛が家族の一員として近くにいなかったら、私はたぶん、牛を可愛いと思うだけで、一生牛と向き合っていきたいとは思わなかったと思います。現在も祖父母・両親が酪農を続けてくれていることに本当に感謝しています。牛のおかげで私の人生は変わり、私は酪農に関わることで、よってたくさんの方に出会い、学び、大きな夢を持つことが出来ました。酪農家という夢の実現を目指して、親と共に胸を張って頑張ります。私は今、酪農家の娘として生まれてきたことを誇りに思っています。牛といることが当たり前という環境で育った私には、これから先、牛なしの人生は考えられません。親を最高のお手本にして、酪農を受け継ぎます。そしていつか親を超え、一流の牛飼いになります。私の人生を酪農に捧げます。
